

風の流氷

【短歌】

岡崎 桜雲 選

亡き母の心肺停止二度看たり命儚き機械と思ゆ

雨上がりゲートより落つる水しぶき見おろす虹の美しきかな

刈取りはひと月先か穂揃ひし早稲田を渡る筋なせる風

刈取り機を休めて田圃に人は居ず伸びし藪草に照る夏の日

のうげんに無情の雨の降りしきる傘を差したやああ花びらが

通信の兵士と共に夜勤せしわが青春や幻に見ゆ

育毛剤すり込みながら芙蓉咲く裏庭に立つ老母は精々

熱帯夜眠れぬままに刻進まず寝返りばかり外はしらみたり

立ち止まりまた引き返す絵屏風に絵金の呻きひそやかなりし

耕せし畑あそばすを惜しみては次つぎに植え手入れとどかず

梅雨晴れ間幼のすずめ二羽窓に起きろ起きろと吾をのぞきをり

哀しみを内に潜めて逝きし叔父月なき夜の静かなる通夜

敗戦の痛みを知らぬ若きらが戦語るをおぞましと思ふ

歳重ね思い出つづる七夕に進化の日々を願いて生きる

「気をつけよ」窓にぼつりと言ひ残し南風12号は遠ざかりゆく

谷川に卯の花ちりて流れゆく激に入れば輪をかき乍ら

通るたびにふた開けらるるからつぼの郵便箱はすこし寂しげ

こんなにも種類のあると驚きぬあじさい街道友と歩みて

梅雨末期遠雷聞こゆる午後七時テレビニュースは豪雨を映す

定刻に練習始むる豆剣士全国大会夢みいるあらむ

朝ごとに辻に立ちくるる今井さん児らに声かけ手信号なす

穫りたてのキャベツに包丁あてたればパンと弾けて香りたちきぬ

森本 幸美

五百蔵利美

大岸由起子

岡村 敏子

岡本 初美

坂上のぶ子

西野地 薫

楮佐古きよ

山崎 貴子

小松 敏子

盛岡 雛子

高田 清子

公文 千恵

谷内 務

吉本 悦子

松中 賀代

竹村 咲子

門田 明子

大石 綾子

林田 幸子

古川 安子

公文 正子

今日の日のなすべき事を思索して朝の一番ジュースーに向かふ
ランドセル揺らして走る男の子みんなにはよう声かけをする
茎の頭一夜の花の衰える朝のしずけし吾がちやぶ台に
蛙らは暗闇の中に大合唱時々響く牛蛙の声

武内 弘子
小松 禮子
小松もとみ
伊藤 清子

木々の間を日の射しければこの溪にしぶける瀧の折に虹見す

佐竹 玲子

昨日咲きたる数多の赤きチューリップ先とがらせて雨に花閉づ

都築 初代

鳴子打ち踊りの群れに加わりて商店街行けりかの暑き日よ

古谷 由美

夜の更けて二歳ようやく眠りたり九時二十六分男の子の報せ

佐々木真里

藤の花今が盛りと数多垂れ我はかざしぬ妻の写真を

宮地 亀好

知りてより同じ呼び名に親しめり山田の逆川ふるさと佐川

田村 光

風の中コーヒーカップに一ひらの桜の花びら散りてきたりぬ

森本眞理子

入所せし妻の心をいやさんとやさしきおつと夕管の花

鍵山 春子

折々にラインの画面埋め尽す成長嬉しき三人の孫

刈谷美代子

化粧瓶と紛ふ大きさ陶の雛目も鼻口もただ点描なり

岩井 純子

思ひ出は断片的に現れりゆかしい街並み若き笑顔よ

秋 星

加速する老いにあらがう手たてなくただひたすらに食べることのみ

野村 典子

なだらかな海への起伏しかと踏み花嫁門出の花びらを蒔く

町 耿子

九十の手習いオカリナ若きならに交りてはげむ息はずませて

明石 敬恵

父の日にささやかながらプレゼント渡してもすぐ開けない父よ

吉川 恵

除草剤効かぬ田んぼに稗横行草刈りならぬ稗刈り汗だく

中村 佐代

黄泉の人そこに侍らむ思ひして受賞の謝辞をわが述べむとす

野島 富石

男梅雨とはいみじくも雨風が暴れ神興の如く去りたり

岡崎 桜雲

俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載を希望される方は、掲載月の前月1日までに、ご応募ください。

【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係

〒782-8501 (住所記載不要) FAX 53-5958

吉井勇記念館だより

企画展 吉井勇、日本の伝統文化と芸能を詠う

吉井勇は日本の伝統文化や芸能、芸術をこよなく愛し、短歌や小説、戯曲などの作品に多く取り入れています。ぜひご覧ください。

【期間】9月6日(水)～12月24日(日) ※火曜休館

吉井勇作品紹介

道長の榮華はもろく消ぬれども 紫式部の名はもほろびず

藝道の深さにおもひ入るときや 世阿彌の息を聴くこころする

しみじみと芭蕉をしたふこころもて 徒然の詞今日も誦し居り

『玄冬』(昭和19年)―先達讃歌―より

【解説】 柿本人麻呂、紫式部、清

少納言、世阿彌、俵屋宗達、

松尾芭蕉、近松門左衛門、

井原西鶴、与謝蕪村、本居宣長、樋口一葉などといった先達の名前を挙げ、「われもまたその後塵を拝する一人」として、彼らを讃える歌を詠んでいます。これらの歌からは、短歌や文学だけに留まらない、勇の芸に対する造詣の深さを伺い知ることができます。

問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220

図書館だより

市立図書館



物部分館が、物部支所新庁舎内に開館して8カ月がたちました。

地域の利用者のほか、県内各地からも多くの来館があります。いろいろな催しも行っていますので、ぜひご利用ください。

◆物部分館の活動(6月)

6月24日、読み聞かせボランティア講座を開催しました。

『山田おはなしの会』の楠目ふみさんを講師に迎え、本の選定の仕方、ページのめくり方、間の取り方など、読み聞かせの基本的なことを学習しました。参加者の感想をご紹介します。

「読み聞かせで得ることが出来る心のゆとりの大きさを初めて知りました。子どもたちが自ら本を読むことも大切ですが、読み聞かせの重要さが分かり、いい講座でした。読み聞かせ後の授業が、落ち着いて受けられると思いました」

◆物部分館の活動(7月)

7月22日、おはなし会とプラトンボ作りを開催しました。

自分たちで作ったプラトンボが宙に舞うと大きな歓声が上がります。夢中で追いかける子どもたちの姿が見られました。

市内はもとより高知市からの参加もあり、楽しい夏休みの幕開けとなりました。

◆いざなぎ流の本あります

『いざなぎ流』は、古くから物部に伝えられてきた民間信仰で、いざなぎ流御祈禱は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

物部分館には、いざなぎ流に関する本があり、貸し出しをしています。ぜひご利用ください。

▽いざなぎ流の研究(小松和彦)▽いざなぎ流祭文帳(吉村淑甫監修)▽いざなぎ流式王子(斎藤英喜)▽消滅いざなぎ流とその古(企画構成・山崎順一)

Pick Up

短歌を詠む科学者たち

松村由利子 著
最先端の研究に挑む科学者7人が、短歌という詩型に乗せて思いを紡ぐ。湯川秀樹ら7人の生涯をたどりながら、その短歌と彼らの研究を紹介する。



キッチンでできる 草木染めレッスン帖

佐藤麻陽 著
大がかりな道具は不要です。ピワの葉・ヨモギ・栗のイガ・桜の落ち葉などを使った草木染め。100円ショップのバッグやポーチも華麗に変身!



地藏千年、花百年

柴田翔 著
江戸の菓子司の物語。人は誰もいずれこの世に別れを告げ、身近な人々の記憶に残る。しかしやがて、その記憶も消え去る。著者30年ぶりの長編。

